

大原社会問題研究所100周年記念展示 環境アーカイブズ特別展  
「ノーモア・スモン 和解調印から40年 資料でたどる薬害の原点」報告

川田 恭子

大原社会問題研究所では創立100周年を記念し、2018年5月より研究所所蔵資料の展示を行なっている。その一環として、環境アーカイブズ所蔵資料より「歴史的な和解」と称された和解確認書調印から2019年に40年の節目を迎える「0002 スモンの会全国連絡協議会・薬害スモン関係資料」（以下、薬害スモン関係資料）を選び、12月3日から2019年1月25日まで特別展を行なった。

薬害スモン関係資料は、総点数1万259点の資料群である。薬害スモン被害者団体のスモンの会全国連絡協議会（略称：ス全協）が1967～1984年に作成・収集した資料で、団体の活動が記録されている。資料群の詳細や薬害スモンについては、本号の3～18頁を参照いただきたい。

展示に際し、(1) 薬害スモンとはなにかを伝える、(2) 資料作成者であるスモンの会全国連絡協議会の活動を伝える、(3) 資料の背景に興味を持ってもらい利用につなげていきたいという3点を意識して資料を選定した。結果、ス全協結成から「歴史的」和解確認書調印までを物語る文書資料および原因となった薬を展示ケース内に並べ、横断幕とポスターという大型資料を壁面に吊ることになった。



図1 展示ケース内の様子

あわせて、展示資料の背景を知ってもらうためにパネルを作成した。薬害スモンとはなにか、社会運動としてどのように展開したかなどをまとめ、所蔵資料の一部を写真でパネル内に配置した（後掲図4展示パネル参照）。

展示ケース内には、1974年のス全協結成大会における決議から1979年9月の「確認書」調印の意義を支援者に訴えるビラまで計12点を配

置した。とくにビラはその時々の運動の焦点を社会に伝える役割をになった文書資料である。そのため、薬害スモンの運動の経過を見せるために6点を展示した。

さらに壁面に吊るかたちで、地裁判決行動時につくられた3種類のポスターと「ノーモア・スモン」のスローガンが書かれた横断幕1点を掲示した。環境アーカイブズでは横断幕を22点所蔵しているが、ス全協の活動の柱の1つである薬害根絶を示す文言が描かれているものを掲げた。ポス

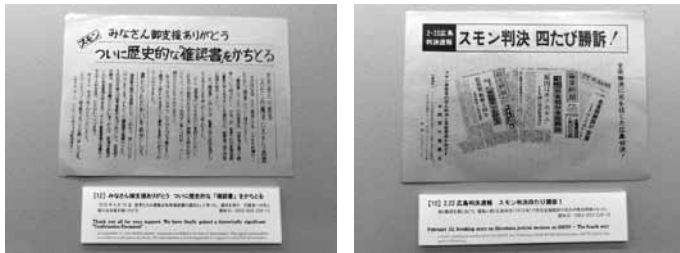


図2 展示したビラの一部



図3 壁面に展示した、判決行動時の横断幕とポスター

ターは、当時の様子をビジュアルで伝えるために被害者たちの写真があつかわれているものを選んだ。

なお、特別展開催期間中に「第6回公害資料館連携フォーラム in 東京」が法政大学多摩キャンパスで開催され、フォーラムの企画の一環として環境アーカイブズおよび展示の見学会を行なった。参加者23名にアンケートを実施した結果、全員からおおよそ薬害スモンのことを知ることができたという回答を得た。展示した資料のなかで、もっとも興味をひかれた資料としては、[No.11 キノホルム剤(原物)]を挙げた

人数が多く(23人中5人)、その理由として「実物を目にする機会がない」「リアルな訴求力はずごい」といった回答が寄せられた。キノホルム剤以外にも、展示ケース内の一次資料に対する興味が高く、スモンの会全国連絡協議会結成決議や実際に集会で配られていたビラなどにも「手書きのメモが生々しい」「(ビラのイラストなどに対して)市民活動の工夫を感じた」といった意見がよせられた。一方で、展示の問題点として「写真が少ない」「パネルが小さい」という回答を得た。

総括として、当初展示の目的とした薬害スモンへの関心の喚起と作成主体であるス全協の活動を伝える役割は果たせたと感じている。しかし、展示期間後、薬害スモン関係資料への利用問い合わせが増えたという事実はなかったことから、利用へつなげるための展示という意味では充足していたとは言えなかった。ビラ1点を自分の興味にどうやってつなげるのか。一次資料を利用してもらうためのアーカイブズの使い方なども紹介すべきであったのではないかと反省している。

わずかなスペースではあるが、興味を持つきっかけとして展示を機能させるためには、インパクトのある一次資料を紹介することと、その背景を説明することが求められている。印刷されたビラやガリ版刷りの決議は、稀覯本のような一見して価値を理解できる求心力には乏しいかもしれない。しかし、その資料が持つコンテキストを知ることで、日本の薬害史において重要な転換点となった集会の記録であることがわかる。

2019年12月にも予定されている環境アーカイブズ特別展でも、それだけで見ればなんの変哲もないミニコミやビラが日本社会においてどのような意味を持つのかを伝えられるように、所蔵資料を紹介していきたい。なお、展示した資料はすべて環境アーカイブズで公開しているため、利用申請いただければ、手にとって見ていただくことができる。

環境アーカイブズ Web サイト：<http://k-archives.ws.hosei.ac.jp/>



図4 展示パネル

展示概要

開催期間：2018年12月3日(月)～2019年1月25日(金)

会場：法政大学多摩キャンパス 大原社会問題研究所内

来訪者数：42名

展示内容：環境アーカイブズ所蔵 スモンの会全国連絡協議会・薬害スモン関係資料より

No.	資料名	キャプション	資料ID
1	[スモンの会全国連絡協議会結成大会] 決議	1974年3月31日 東京・千日谷会堂で全協結成大会が行われた際の結成決議。	0002-B34-234-83
2	東京地裁スモン第2陣訴訟 スモンの鑑定採用はなぜ悪いの？	おもに東京地裁が採用した外部の鑑定人によるスモン患者の認定に抗議するピラ。	0002-B52-329-40

3	「スモンと闘う」第42号	スモン東京弁護士会報。裁判所の動向やスモン協会の行動スケジュールなどが掲載されている。表紙写真は、被害者たちが厚生省と交渉したときのもの。	0002-B52-329-43
4	「青いたすきのたたかい ノーモアスモンをめざして」	神奈川県のスモン被害者組織作成冊子。患者自身の生の声を掲載している。	0002-B22-140-11
5	損害賠償請求(福岡スモン訴訟)事件判決	福岡地裁判決をまとめた簿冊。福岡判決は、3回目にして原告全面勝訴となった。展示ページでは薬害の被害と患者の怒りを伝えている。	0002-B43-283-1 0002-B43-284-1
6	国はスモン広島判決に従え!	4回目の勝訴となった広島判決時のスモン被害者たちの姿。広島判決では、鑑定人ではなく専門医の診断によるスモンの認定を採用した。	0002-B39-258-26
7	国とチバ・武田・田辺は判決に従え 本日2月22日スモン広島判決	ビラの裏面に刷られた歌手横井久美子作詞・作曲「ノーモア・スモンの歌」。厚生省前座り込み大行動では、被害者たちがこの曲を歌った。	0002-B39-258-32
8	長編記録映画「人間の権利——スモンの場合」初上映案内 記録映画『ノーモアスモン——人間として生きるために』パンフ	運動の中でスモン被害者の苦しみを描いたドキュメンタリー映画がつくられた。 長編記録映画「人間の権利」の初上映を案内するチラシと、映画「ノーモアスモン」のパンフレット。	0002-B39-258-7 0002-B52-329-44
9	三日間の健康を私に与えてください——あるスモン患者の詩	1982年行動時配布のビラの裏に刷られた入院生活を続けるスモン患者の書いた詩。作中の充枝は娘のこと。このとき彼女は夫と事実上の離婚状態にあった。	0002-B39-263-43
10	2.22 広島判決速報 スモン判決四たび勝訴!	続く勝訴を報じるビラ。福岡に続く広島判決で原告全面勝訴の流れが既定路線となった。	0002-B52-329-35
11	スモンの原因となったキノホルム剤	・供試品 Mexaform forte, 強力メキサホルム錠 腸内病原殺菌・整腸剤。 ・Mexaform 製造: CIBA キノホルム剤は海外でも売られていた。	0002-B55-336-377 0002-B55-336-376
12	みなさん御支援ありがとうございます ついに歴史的な「確認書」をかちとる	1979年9月15日 患者たちの運動は和解確認書の調印として実った。調印を受け、支援者への礼と新たな決意を描いたビラ。	0002-B39-258-12
13	完全勝利判決と薬害根絶をめざす7・19静岡スモン勝利判決を!	1979年7月静岡判決行動時のポスター	0002-B53-330-59
14	7・31 大阪スモン判決 薬害根絶を皆の力で!	1979年7月31日大阪判決行動時のポスター	0002-B58-348-4
15	北海道スモン判決 5月10日(木)午後2時	1979年5月10日札幌判決行動時のポスター	0002-B58-348-6
16	集会時に使用された横断幕	ノーモア・スモン, 全面解決を!	0002-B78-394-1

(かわた・きょうこ 法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ アーキビスト)